



私には
ひっかかっている事が
ひとつあった。

写真に映るボーカル灰二の瞳に、途方に
暮れたような空虚感を受けとる事がある。
ステージ上での圧倒的な気迫を放出する
彼とのギャップ。それがどこから来るもの
なのか…気になっていた。

93年に解散し2006年にオリジナルメンバー
の渡邊灰二(Vo)、伊藤毅(B)で再始動した
THE VANILA。

再始動当時は以前に歌っていた曲達に息
を吹き込んでいた。

2007年に中村タロウ(G)を迎えてからは
「今」のバニラをより感じられるように
なった。

それはサウンド的なところにもあったが以
前の曲に加え、何より新曲を聴いた時に
強く感じた。

今日は、ここ何回かのLIVEで歌われ出した
新曲「1ダースの欲望」にすっかりやられて
いた。

--解けない迷路は続いている
俺ははぐれたままでいる
ただ立ち止まらずに目を凝らし
たった一つじゃない出口をさがして--

前回まで”たった一つだけの光を探して”
と歌われていた歌詞を灰二は今日
”たった一つじゃない出口を探して”と
歌った。それがジワジワ自分の中で効いて
きてサビのリフレインの印象が別のもの
になった。

--俺は何度も繰り返す
フォーカスをあわせくり返す
ついてくる煙を払いのけながら
真夜中に流れるメロディ
探しているメロディ
たどり着いた夜にそっと吠える--

THE VANILAの再始動や2ヶ月ごとのLIVEの
活動…自然に自分の中で重なりあった。

たった一つの出口にフォーカスをあわせていく作業はしんどい
作業に思っていたんだ。

だけど、今日の歌詞を聴いて「たった一つの出口に何度もフォー
カスをあわせ続けてきた」からこそ、もしかしたら出口はたった
一つじゃないって事に辿り着いたのかもしれないと思えた。

でもさ、どんな思いを何度したのだろう？

なんて思うと写真に映る灰二の瞳にカートコバーンに感じるよう
な儚さを感じ取る事は紐解きのヒントになる気がした。

灰二の歌詞の特徴の一つは心もたない感じや、虚しさの描写が
多くあることだと思う。

繊細さゆえに孤独に敏感で人の痛みを人一倍感じ取る。

それを詩に紡ぐ心を灰二は宿している。それらは今も変わらず
に研ぎ澄まされたまま灰二の中にある。

加えてバンドを再始動させる中での新しい変化が生まれている。
歌詞を追いかけると興味深い。

「がんばれよ」って背中をおすものだけがメッセージと思いがち
だけど、それだけじゃないメッセージがココにある。

灰二は、今、万感の思いを込め歌う事があってステージに立っ
ている。

再始動三年、タロウが正式加入して

一周年の今日(2009.1.16渋谷La.mama)のLIVE。

新たな風によって灰二の瞳から受け取るものも変化して行くの
だろうと感じた。

※1月16日渋谷La-mamaのLIVEより

Stay or Go 特別編集号 ★第6弾★

2009.03.13発行

<http://www.stay-or-go.jp/> SUMIKO

※バックナンバーはサイトで見る事が出来ます。



THE VANILA

official サイトへはこちらから

<http://www.thevanila.com/>